

有珠山の最も典型的な噴火パターン

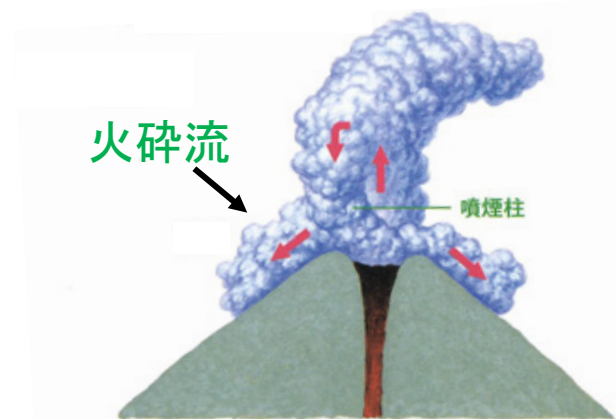
皆様こんにちは！ジオパーク推進協議会・学術専門員の西でございます。有珠山の西暦1663年以降の噴火活動は計8回といわれていますが、どのようなものが最も多いのでしょうか？将来発生するかもしれない有珠山の噴火に備えて、過去の有珠山の噴火パターンについて学んでみましょう！

① 初めに噴煙がとっても高く上がる



初めに爆発的に噴煙を広げて、広い範囲に噴出物を放出します。このような噴火を‘プリニー式噴火’と言います。

② 次に高速で流れ下る火砕流が発生する



その後、ガスと噴出物が高速で山を流れ下る‘火砕流’が発生します。1822年噴火では約100名がこの火砕流で亡くなりました。火砕流の発生要因については、次回詳しく紹介します。

③ その後、溶岩ドームが形成される

大有珠



その後、大有珠のような‘溶岩（潜在）ドーム’が形成されます。有珠山では8回の噴火のうち、このようなパターンが3回発生しました。

避難経路を確認しよう



次の噴火に備えて、ハザードマップを見て避難経路をあらかじめ確認しておくことが大切です。ハザードマップは洞爺湖有珠山ジオパークのホームページでダウンロードできます。